

熱帯域での観測から学んだこと

熱帯域は地球上の水・エネルギー循環の活発なところですが、観測点や観測項目が非常に少なく、そのほとんどが日単位データです。そのためタイ北東部のナン川支川のクワエノイ川流域で時間的・空間的に密な河川流量、雨量等の観測を行っています。

タイでは乾期と雨期があり、12月から5月が乾期です。特に、12月から3月は最も気候のよいときで、日中の気温は33℃ほどです。湿度は低くからっています。外では日よけの帽子と飲み水の携帯が必要です。夜は15℃まで下がり、クーラーをつけっ放して寝ていて風邪をひくことがあります。

4月から5月の気候は非常に暑く、乾燥します。日中、気温は36℃まで上がり、地表が乾燥するので、地温が46℃まで上がる場所があります。夜間の気温は20～25℃とあまり下がりません。6月から10月は雨期です。日中の気温は30℃ほどで、夜間でも24℃ほどまでしか下がりません。湿度は高く、蒸し暑く感じます。ここでの長期観測の中で得た経験の幾つかを以下に紹介します。

(1) 日中は暑くて食欲が無くなりがちですが、朝は涼しいのでなるべく朝食を取るようになる。気温の高い昼間はゆっくりした食事と十分な休息を取る。必要があれば早いうちからの仕事を勧めます。

(2) 同じ釜のめしを食う。生活習慣

や文化が異なる間で一緒に仕事をするので、地方食を共にし、片言で語り合う機会を持つことが大切です。

(3) 過酷な運転をさせてはいけない。道路が広いので車はスピードを出します。先を急ぐとなおさらスピードが上がります。工事で片道通行のため、長時間待たされることがあります。運転手は時間を取り戻す努力をします。ときには穴ぼこを高速で走り抜け激しい衝撃を受けることがあります。精密機械が壊れそうになり、身の危険を感じることもさえます。乾期は暑く、十分な休息が必要ですし、雨期は道路事情が悪くなることを考慮して、無駄なようでもゆっくりした計画が必要です。

(4) 観測技術の移転に際して、精密な観測機器の説明と同様に、それを使用する場の設定と使用環境を十分に説明することが重要です。それを通じて精密機器の使用限界とその必要性を判断できるようになります。

(問い合わせ先：総合防災研究部 総括主任研究員 中根和郎)



タイ国クワエノイ川流域山間部の共同観測風景